時事新報

驛遞局認可

明治十八年四月廿一日
（西暦一千八百八十五年）
火曜日
第九百四十八號
日曜日休刊

公報

東京圖書館

○太政官布達第五號

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム

右布達候事

明治十八年四月十八日　太政大臣公爵三條實美
農商務卿伯爵松方正義

（別紙）

專賣特許手續○第一條　專賣特許ニ關スル願書及屆書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ○第二條　專賣特許ヲ願出ルトキハ一個ノ發明ニ付願書二通明細書幷圖面各三通ニ免許料ヲ添フヘシ二人以上協同ノ一個ノ發明ヲ爲シタルトキハ其願書及明細書等ニ連署スヘシ○第三條　明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ○第四條　專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ「一　發明ノ名稱」二　專賣特許ノ年限」三　條例ニ抵觸セサル旨」四　願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨○第五條　明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ「一　發明ノ目的及性質ノ大體說明」二　圖面ノ解說（圖面ヲ添フルトキハ）」三　發明ノ製作、構造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ說明」四　發明ノ區域」五　發明人ノ族籍住所氏名○第六條　圖面ニハ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ說明ト符合セシムヘシ○第七條　條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ願書二通ニ專賣特許證、約定書寫、及免許料ヲ添フヘシ○第八條　條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ○第九條　條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ○第十條　條例第六條第二項及第十二條氏名變換ノ屆出ヲ爲ストキハ農商務省ニ於テ專賣特許證ニ寫書ヲ爲スヘシ○第十一條　條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書ニ免許料ヲ添フヘシ○第十二條　專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脫漏又ハ誤謬アルヿヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ」

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス○第十三條　專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシ○第十四條　條例第四條第一項ニ關レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス○第十五條　附則第二項ニ依リ使用特許ヲ受ケント欲スル者ハ其來歷ヲ詳記シタル願書二通ヲ差出スヘシ

敍任

○明治十八年四月十三日

敍正五位　　從五位　岡部長寛

○明治十八年四月十八日

任元老院議官　新潟縣令正五位勳三等　永山盛輝
任兵庫縣令　三重縣令從五位勳六等　內海忠勝
任三重縣令　內務大書記官從五位勳四等石井邦猷
任新潟縣令　兵庫縣大書記官　從六位　後藤五郎

時事新報

佛清ノ媾和ハ以テ佛蘭西ヲ輕重スルニ足ラズ

佛清ノ和議將サニ成ラントスルヲ見テ一ト通リ考ヘタル所ヲ以テスレハ元來コノ亂暴ノ本ヲ尋レハ佛蘭西ノ方ヨリ手ヲ出シテ東京ノ地方ニ事ヲ起シ遂ニ支那政府ト直接ノ關係ト爲リテ當時ハ支那ノ方ニテモ佛ニ敵スルヲ好マズ十分ニ勘辨シテ去年五月李鴻章トふるにゑート相會シ天津ノ條約ニテ局ヲ結ハントスル折シモ復タ佛ニヨリ苦情ヲ申出シテ諒山開城ノ議論ニ及ヒ天津條約中ノ一節ヲ抹殺シタリトカ、セザリシトカ小兒ノ爭ニ等シキ爭端ヨリシテ双方血途レノ戰爭ト爲リ双方共ニ大金ヲ費シ多人數ヲ殺シ貴重ナル物ヲ破壞シ大切ナル商賈工業ヲ妨ケ扨其終局ハ如何ト尋レハ醉狂人ニ酒氣ノ去リタルガ如ク去年以來ノ亂暴ハ唯一場ノ夢ニシテ消ヘテ痕ナク笑ヲ愛ニ和睦トハ實ニ小兒ノ戲ニシテ大人ノ事ト云フ可ラズ殊ニ佛蘭西ノ方ニテハ近日寧波ノ港口ヲハ少々荒ラシタリトハ雖ヒ西德山ノ一戰ハ佛ノ大敗ト云ハザルヲ得ズ歐洲ノ內ニ在テモ一二ヲ爭フ强大俠勇ノ國柄ニシテ相手ニ取ルニモ足ラザル東洋ノ腐敗國ニ敵シ最後ニ敗シテ、敗シタルヿハ退ノ及ブトハ言語道斷沙汰ノ限リニシテ是レヨリ佛蘭西ノ威光ハ東洋ノ外ニ曩ルノミナラズ西洋ノ內ニ在テ列國ノ輕侮ヲ蒙リ國ヲ立テ、自カラ守ルコトサヘ困難ナラン隣邦ノ獨逸ハ國ニ中タリタリト竊ニ得意ノ顏色スレハ彼岸ノ英國モ先ヅ安心ナリトテ悅ビ小覇ノ西班牙ニ至ルマデモ聊カ傲慢ノ念ヲ增長スルナドノ奇談モアル可シ云々トハ我輩モ一寸空想シテ世間ニモ或ハ斯ル圖書ヲ心ニ畫キタル人ナキヲ期ス可ラズト雖ヒ世界ノ事ハ遠ニ列國ヲ下ダス可ラズ淺見寡聞ノ我輩ガ獨リ再思三思シテ前說ノ非ヲ悟リタルモノアレハ紀シテ以テ大方ノ敎ヲ乞ハントス抑モ鄙見ヲ以テ西洋諸國ト東洋諸國就中支那トノ關係ヲ察スルニ支那ノ文物ナリ又貳備ナリ素ヨリ以テ西洋國ノ敵トスルニ足ラズ人文ノ程度既ニ懸隔シテ武力ノ强弱又相異ナルヿハ之ヲ友トシテ交リ之ヲ敵トシテ勝ツノ榮辱モ西洋人ノ心ニ感スル所ハ左マデ顯著ナル可ラズ蓋友ニ交レハコソ榮譽トモ爲リ勝ヲ雖キノ敵ニ勝テハコソ人ニモ誇ル可キナレ地西洋諸國ノ文ヲ以テ支那人ニ交リ何ノ益スル所アル可キヤ、實ニ外ヲ行ヒ錢ヲ利スルノ外ニ一利モアル可ラズ、其武ヲ支那ニ煙カシテ何ノ愉快アル可キヤ、土地ヲ押領シテ殖民ノ道ヲ開クカ新條約ヲ結ヒテ利ヲ較ノ外ニ目的アル可ラズ之ヲ喻ヘハ段以上ノ碁客ガ俗ニ所謂ざる碁ト圍碁スルガ如シ其勝敗ヲ以テ碁客ノ伎倆ヲ評ス可ラズ勝テハヤテ世ニ誇ルニ足ラズ敗スレハ迚ヲ空ヲ損スルニ非ズ唯其碁客ガ相手ヲ侮リ圍ラズモ困難シテ遂ニ賭物ヲ占ルノ場合ニ至ラザリシハ碁客伸間ノ笑種ト爲ル可キノミナレ𪜈其笑ヤ伎倆ノ巧拙ヲ笑フニ非ズシテ棄人ヲ取扱フニ碁略ノ拙キヲ笑フナリ如何トナレハ此圍碁ヲ本式ニスルヿハざる碁固ヨリ段以上ノ敵手ニ非ザレハナリ或ハ二段三段ノ碁客ガ初段二段ノ者ニ失敗シタラヌニハ忽チ其社中ニ評論ヲ生シテ當人ヲ輕重スルニモアル可ケレ𪜈素人ヲ相手ニスルノ碁戰ハ圍碁ニシテ圍碁ニ非ズ其勝敗ハ以テ碁客ノ榮辱トスルニ足ラザルナリ故ニ佛蘭西ガ今回ノ支那侵略ニ誤リタルハ實ニ佛蘭西國ノ武力ト支那國ノ武力トヲ比較シテ佛ノ力足ラザルガ爲ニ非ズ唯佛國政府ガ自家內部ノ不調和ヲモ圖ラズシテ最初ヨリ支那ヲ目下ニ見下ダシ容易ニ事ヲ始メテ其始末ニ困シ終ニ利スル所モナクシテ和睦ヲ偸フシタルモノヨリ外ナラズ仮ニ此萬腰ヲシテ伊太里ト佛蘭西ノ間ニ起ラシメ佛人ガ龍頭蛇尾ノ擧動スルヿ今回ノ如クナラバ必ズ歐洲全般ノ物論ヲ生シテ安カラザルヿナランナレ𪜈其相手コソ世界ニ隱レモナキ老大ノ腐敗國ナレハ之ニ對スルノ勝敗ハ歐洲ノ物論ヲ動カスニ足ラズ去年以來ノ事跡ヲ見レハ支那ノ勝利トテハ甚タ稀ニシテ固ヨリざる碁ニ相違ナシト雖𪜈其盤面ノ廣キガ爲ニ一二隅ノ失敗ナドニ頓着セズシテ無暗ニ石ヲ下ダス其中ニハ名人モ時ニ棄外シテ豺狼却テ豚羊ニ嘲レタルノ奇談ナキニ非ズ唯一笑ニ附ス可キノミ左レハ佛清ノ媾和ニ平和ノ局ヲ結ビタル上ハ支那人ニハ一層ノ傲慢ヲ增シテ當分ハ東洋ニ佛ノ威光ヲ損スルヿモアル可ケレ𪜈是レハ所謂ざる碁ノ大言ナルモノニシテ唯一時東洋ニ於テ然ル可キノミ退テ歐洲列國ノ釣合ヲ見レハ佛蘭西ハ依然タル佛蘭西ニシテ其國ノ勢力ニ一點ノ瑕疵ヲモ見ズ獨英露等ノ關係ニ於テ曾テ輕重スル所ナキヿナラン故ニ今度ノ終局ニ於テ仮ニ之ヲ佛蘭西ノ全敗トスルモ我輩ガ平生支那ニ對シ又佛蘭西ニ對スルノ心事ハ毫モ變スルヿアルナシ我輩ハ兩國政府ニ時ノ處置ヲ問ハズシテ其國民全体ノ文不文ヲ見ルモノナリ我輩ハ全勝ノ支那タルヨリモ寧ロ全敗ノ佛蘭西タランヿヲ願ルモノナリ

雜報

○官廳彙報　森岡非職農商務少輔は去る十八日兵庫縣令事職中の事務引繼として同縣へ出張仰付られをさり

○判事高木豐三氏は去る十八日內務省に於て同省書記練習所の刑法講義を囑托せられたり○從五位岡部長寛氏は本月十三日特旨を以て位階を進められたり

○常備後備兵大隊旗制定　陸軍省よ於ては常備步兵大隊旗後備步兵大隊旗を制定せし旨を去る十八日陸軍一般へ達したり

○ゴルドン將軍の紀念病院費　ゴルドン將軍紀念の爲め地中海のポルト セイドへ一の病院を設け普く各國人民は入院を許さ事は過日の紙上に記せしが來國桑港の英國領事スタンレー氏は右紀念費の內へ出金する樣同港に居留する英國人に勸めたるよし

○交詢社員大會　府下南鍋町なる交詢社にては毎年春季社員の大集會を開くの例なるが本年は來る二十五日即第四土曜日と以く向廣國中村樓に社員の大會を開き大會の事と春塞漸

縣の同社

すとい

○東京府

會開會議

せしは

して地方

費の建議

は公用品

より建築

今ては

きは常置

り郡區負

京灣澤塚

擔スル」と

是にて議

九一二の

昨年の終

此に再述

以上に延

に加ふる

も引くの

を現る府

如き猶且

可らさる

ニ付八圓

其方法の

會社株主

差あるが

心附かざ

功日を期

會開設の

なり依て

を區部會

十一月に

るなり五

十番は水

員はあと

無き能は

日本橋區

等頗る若

衛生に關

るは當然

ふやと管

も無きか

通知ある

將又飲用

大層六ケ

營するも

以て好結

間）十六

する之此水

東京府之

廳と會社

し詩句と

ありし末

滅し四十

委員にて

七圓餘）

よ決し三

知事陣場

議長（芳

○銅鑛採

を採掘す

移して大

○茶業の

來互に交